

ワークショップ 6

「食道疾患に対する内視鏡治療の工夫」

司会 引地 拓人（福島県立医科大学附属病院内視鏡診療部）

食道疾患に対する内視鏡治療は、ESD の開発以降、POEM や POET などが発展してきた。最近では、Zenker 憩室に対する内視鏡治療も先進医療で施行され始めている。また、ESD 後の狭窄予防に対するステロイド投与法、ならびに手術後や悪性食道による狭窄に対する RIC やステント留置法の工夫も行われている。放射線治療後の遺残再発食道癌は、PDT により根治を望める時代になった。また、食道静脈瘤に対する内視鏡治療も新たな展開が望まれる。少数例でもよいので、アイデア溢れた手技の工夫や将来性のある新規手技の演題を募集する。